

# 小国川ダム問題 漁協の有識者案認められず

2014年4月14日 10時59分 朝日新聞



最上小国川流域の治水対策などについて、2回目の協議を進める県と小国川漁協など = 新庄市角沢、県立農業大学校緑風館

協議ではまず、漁協側が説明を求めていた治水効果やダムを造った場合の洪水時の濁り対策などについて、県側が説明した。治水効果については、上坂克巳・県土整備部長が、漁協側の主張する河道改修案と比較して説明。河道改修について、「下流から上流に向かって整備することが基本で、上流の赤倉地区の効果発現には時間がかかる」と主張。洪水にさらされてきた赤倉地区の治水安全度確保にはダム案が最も有効との見方を示した。

アユなどの生態に影響があると漁協側が懸念する洪水時の濁りについては「一日後には元の川に戻る」、流水型ダムの穴に流木泥などが詰まることへの懸念に対しては、模型実験データや他県の流水型ダムの実例も挙げながら「閉塞した報告は無い」とした。

さらに若松正俊・県農林水産部長は今後の漁業振興策として放流事業の拡大や魚道の改修などによって水産資源の維持拡大につなげたい、と理解を求めた。

これに対し、漁協側は「もう少し主張を組み入れてほしい」などとダムによらない治水を主張、高橋光明・漁協組合長は、漁協として推薦する有識者を参加させたい意向を示した。

一方、県側は「この場は関係者が集まって、合意を目指す場。有識者の皆さんを入れるのはいかが」と難色を示した。最上町や舟形町の首長、赤倉温泉地域の関係者らも

「これまでに専門家の意見は十分聞いた」として参加を認めない考えを示した。

多くの参加者が有識者については否定的な考えを示したため、悪七幸喜・座長の判断で有識者の参加は認めない方向に決定した。

漁協側からは、漁協の推薦する専門家と県側が推薦する専門家を呼んだ公開のシンポジウムも提案された。が、協議とは別枠の取り組みであるため、判断は示されなかった。

## 県、治水効果再び強調

最上小国川ダム計画を巡り、県と計画に反対する小国川漁協などとの2回目の協議が12日、新庄市の県立農業大学校緑風館で公開で開かれた。県はダム建設による治水効果を改めて強調。有識者を加えた協議を求めた漁協側の主張は、流域住民などの「議論が振り出しに戻る」などの反発で認められず、漁協の主張が通りにくい状況も浮かび上がった。

## 組合側、シンポジウム提案

協議ではまず、漁協側が説明を求めていた治水効果やダムを造った場合の洪水時の濁り対策などについて、県側が説明した。

治水効果については、上坂克巳・県土整備部長が、

漁協側の主張する河道改修案と比較して説明。河道改修について、「下流から上流に向かって整備することが基本で、上流の赤倉地区の効果発現には時間がかかる」と主張。洪水にさらされてきた赤倉地区の治水安全度確保にはダム案が最も有効との見方を示した。

アユなどの生態に影響があると漁協側が懸念する洪水時の濁りについては「一日後には元の川に戻る」、流水型ダムの穴に流木泥などが詰まることへの懸念に対しては、模型実験データや他県の流水型ダムの実例も挙げながら「閉塞した報告は無い」とした。

さらに若松正俊・県農林水産部長は今後の漁業振興策として放流事業の拡大や魚道の改修などによって水産資源の維持拡大につなげたい、と理解を求めた。

これに対し、漁協側は「もう少し主張を組み入れてほしい」などとダムによらない治水を主張、高橋光明・漁協組合長は、漁協として推薦する有識者を参加させたい意向を示した。

一方、県側は「この場は関係者が集まって、合意を目指す場。有識者の皆さんを入れるのはいかが」と難色を示した。最上町や舟形町の首長、赤倉温泉地域の関係者らも

「これまでに専門家の意見は十分聞いた」として参加を認めない考えを示した。

多くの参加者が有識者については否定的な考えを示したため、悪七幸喜・座長の判断で有識者の参加は認めない方向に決定した。

漁協側からは、漁協の推薦する専門家と県側が推薦する専門家を呼んだ公開のシンポジウムも提案された。が、協議とは別枠の取り組みであるため、判断は示されなかった。

## 関係者には賛否が交錯

漁協側が求めた有識者の参加が認められなかったことについて、ダム計画反対の立場で協議を傍聴した「最上小国川の清流を守る会」の共同代表・高桑順一さんは「有識者を参加させないというのは問題だ。治水対策で、さらに議論を深めるためにも有効ではないか」と憤る。漁協の青木公理事は「有識者を加えるのは県にとって、弱みになるからだろう」と指摘した。

一方、漁協以外の参加者からは、検討はし尽くされたという意見が大勢だ。たびたびの洪水に見舞われてきた赤倉温泉町内会の早坂義範会長は「この問題は何年も議論し、専門家の意見も聞いて中間報告をまとめている。有識者を入れて、振り出しに戻ったような形で議論することはやめていただきたい」と会議の席上で発言した。（上田真仁、岩沢志気）